様式１：小学校

令和５年度　滋賀県　英語教育改善プラン

目標

日常生活や自分のことなど身近で簡単な事柄について、内容を目的に応じて捉えたり、簡単な語句や基本的な表現を用いて発信することができる。

１．現状

改善が進んだ点

①児童の言語活動時間の確保
*授業における、生徒の英語による言語活動の割合
R3 ９１．１％ →R4 ９５．０％
R5 目標値：１００．０％

②パフォーマンステストの実施
＊スピーキングとライティングの両方を実施した割合
R3　９６．６％→R4 ９９．５％
R5 目標値：１００．０％

未だ改善が必要な点

❶校種間連携（小中高）の強化
＊英語教育に関する中学校との連携の状況
R3 ６８．４％→R4 ８０．６％
R5 目標値：１００．０％

＊英語教育に関する高等学校との連携の状況
R3　２．３％→R4　６．８％
R5 目標値：　２０．０％

❷CAN-DOリストの活用
＊学習到達目標の達成状況の把握について
R3 ５３．６％→R4 ８０．９％
R5 目標値：　８５．０％

２．分析

①児童の言語活動時間

各種研修によって、目的や場面、状況が明確な「言語活動を通した指導」が各校で実践されている。

②パフォーマンステストの実施

各種研修によって、「指導と評価の一体化」について理解が図られ、指導して身に付いた力をパフォーマンステストで評価するということが、ほぼ全ての学校で行われている。

❶校種間連携

小中連携の機会としていた、小学校英語専科指導教員の授業研究会が、コロナ禍以降、規模が縮小されている。また、小高連携については、そのような機会が県事業として設定できていない。

❷CAN-DOリストの活用

設定は100%、パフォーマンステストの実施もほぼ100%であるが、「CAN-DOリスト」に示された学習到達目標とパフォーマンステストにおける評価がつながっていない教員がいる。

３．施策･事業

【ア】英語発信力育成事業
①児童の言語活動時間　②パフォーマンステストの実施
❶校種間連携　❷CAN-DOリストの活用

・小・中・高において新滋賀県モデル「CAN-DOリスト」を活用した指導と評価の一体化に関する実践研究を行う。
①について
・公開授業を通して、モデルとなる授業(学習者用デジタル教科書の活用を含む）の普及を図る。

【イ】小学校パイオニア実践プロジェクト
①児童の言語活動時間　②パフォーマンステストの実施
❶校種間連携　❷CAN-DOリストの活用

・指導主事が５７校を訪問し、指導助言を行う。校種を越えた公開授業および授業研究会を実施し、言語活動を通した指導やICTの活用について広く普及するとともに、小中連携の機会とする。

【ウ】英語授業改善協力校事業
①児童の言語活動時間　②パフォーマンステストの実施
❷CAN-DOリストの活用

・言語活動を通した指導について、モデルとなる授業を県内に広く普及する。言語活動の充実につながる学習者用デジタル教科書の活用についても、実践を基に周知する。

様式１：中学校

令和５年度　滋賀県　英語教育改善プラン

目標

■CEFR A1相当以上の英語力をもつ生徒の割合　本県の目標 55%
生徒にとって身近な日常的な話題や社会的な話題について、内容を目的に応じて捉えたり、考えたことや感じたこと、その理由などを簡単な語句や文を用いて相手に発信することができる。

１．現状

改善が進んだ点

①生徒の英語力の向上
*CEFR A1レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合
R3 ４２．３%→R4 ４９．８%
R5 目標値：５５．０%

②生徒の言語活動時間の確保
*授業における、生徒の英語による言語活動の割合
R3 ５８．６%→R4 ７８．２%
R5 目標値：９０．０%

③教員の英語使用率の向上
＊英語担当教員の授業における英語使用状況
R3 ６５．７%→R4 ８６．７%
R5 目標値：９０．０%

未だ改善が必要な点

❶校種間連携（小中）の強化
＊英語教育に関する中学校との連携の状況
R3 ６８．４%→R4 ８０．６%
R5 目標値：１００．０%

❷教員の英語力
＊CEFR B2レベル相当以上の英語力を有する英語担当教員の割合
R3 ３７．７%→R4 ３４．６%
R5 目標値：　５０．０%

❸CAN-DOリストの活用
＊学習到達目標の達成状況の把握について
R3 ５７．１%→R4 ７７．６%
R5 目標値：　８０．０%

２．分析

①生徒の英語力
研修等によって、各校で授業改善が進んだ。また、「CAN-DOリスト」を活用し、確かな評価が行われるようになった。

②生徒の言語活動時間
指導力向上に係る悉皆研修によって、言語活動を通した指導について理解が進み、実践されるようになった。

③教員の英語使用
研修等によって、英語によるコミュニケーションを通した授業が実践されるようになった。また、ALTの効果的な活用が進んだ。

❶校種間連携
小中連携の機会としていた、小学校英語専科指導教員の授業研究会が、コロナ禍以降、規模が縮小されている。

❷教員の英語力
教員の英語力に係る研修を行っているが、学校から１名参加の研修としているため、未受講者が多く、英語力向上の動機づけが英語科教員全体に行えていない。

❸CAN-DOリストの活用
目標設定は100%であるが、具体的に指導と評価にどう活用すればよいか理解していない教員がまだ多い。

３．施策･事業

【ア】英語発信力育成事業
①生徒の英語力　②生徒の言語活動時間　③教員の英語使用
❶校種間連携　❸CAN-DOリストの活用

・小・中・高等学校が、新滋賀県モデル「CAN-DOリスト」を活用した指導と評価の一体化に関する実践研究を行う。
①②③について
・公開授業を通して、モデルとなる授業(学習者用デジタル教科書の活用を含む）の普及を図る。

【イ】英語インプルーブメントセミナー
①生徒の英語力　②生徒の言語活動時間　③教員の英語使用
❷教員の英語力

・教員の英語力、主にスピーキング能力の向上に係る研修を行うことで、自身の英語力向上の研鑽に継続的に励む動機づけを行う。
・英語によるコミュニケーションを主体とした研修が言語活動を通した指導につながるような研修内容にする。

【ウ】英語授業改善協力校事業
②生徒の言語活動時間 ③パフォーマンステストの実施
❸CAN-DOリストの活用

・言語活動を通した指導について、モデルとなる授業を県内に広く普及する。言語活動の充実につながる学習者用デジタル教科書の活用についても、実践を基に周知する。

様式１：高等学校

令和５年度　滋賀県　英語教育改善プラン

目標

■CEFR A2相当以上の英語力をもつ生徒の割合　本県の目標 53%
日常的な話題や社会的な話題について、聞いたり読んだりした内容を目的に応じて捉えたり、情報や考え、気持ちなどを理由や根拠とともに書いたり、話したりして、相手に発信をすることができる力を育成する。

１．現状

改善が進んだ点

①生徒の英語力の向上
*CEFR A2レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合
R３ ４０.３%→R４ ４８.３%
R５ 目標値：５３.０%

②教員の英語力の向上
＊CEFR B1レベル相当以上の英語力を有する英語担当教員の割合
R３ ６８.６%→R４ ７１.５%
R５ 目標値：75.0%

③教員の英語使用率の向上
＊英語担当教員の授業における英語使用状況
R３ ３１.０%→R４ ３３.７%
R５ 目標値：６０.０%

未だ改善が必要な点

❶校種間連携（中高）の強化
＊英語教育に関する中学校との連携の状況
R３ １３.０%→ R４ ９.１%
R５ 目標値：５０.０%

❷パフォーマンステストの実施
＊スピーキングとライティングの両方を実施した割合
R３ ２２.３% → R４ ２０.８%
R５ 目標値：５０.０%

❸生徒の言語活動時間の確保
*授業における、生徒の英語による言語活動の割合
R３ ３９.２%→ R４ ４０.５%
R５ 目標値：８０.０%

２．分析

①生徒の英語力の向上
資格検定試験取得者の向上表現領域の指導に取り組む教員が増え、外部資格・検定試験に挑戦する機運が高まった。

②教員の英語力の向上
県内の英語研修では、英語による研修に取り組んだ。英語力向上への意識が高まっている。

③教員の英語使用率の向上
言語使用場面を意識した研修や研究授業（悉皆）により、英語で授業を行う意識が高まった。

❶校種間連携（中高）の強化
教員の交流機会や共同で取り組む英語事業など校種間連携を活性化させる事業計画が必要である。

❷パフォーマンステストの実施
パフォーマンステストの実施回数が向上するものの、学校間での取組格差が大きい。

❸生徒の言語活動時間の確保
聞いたり、読んだりしたことを話したり、書いたりする領域統合の指導が十分にできていない。

３．施策･事業

【ア】 英語発信力育成事業

①生徒の英語力の向上　❸生徒の言語活動時間の確保

・小・中・高における「新滋賀県モデルCAN-DOリスト」を活用した指導と評価の一体化に関する実践研究を行う。

①生徒の英語力の向上　❶校種間連携（中高）の強化
❸生徒の言語活動時間の確保

・公開授業を通したモデルとなる授業の普及を図る。

【イ】 英語インプルーブメントセミナー

①生徒の英語力の向上　②教員の英語力の向上
③教員の英語使用率の向上　❸生徒の言語活動時間の確保

・英語漬け研修を行い、英語力向上の意識向上を図る。
・授業での英語使用場面を意識し、英語で授業を行う基本的な指導力向上を図る。

【ウ】 パフォーマンステストワークショップ

①生徒の英語力の向上　③教員の英語使用率の向上
❷パフォーマンステストの実施　❸生徒の言語活動時間の確保

・授業における言語活動とパフォーマンステスト作成に係る理論や実践を演習形式で学ぶ。

【エ】 伴走型英語教育サポート事業

③教員の英語使用率の向上
❷パフォーマンステストの実施　❸生徒の言語活動時間の確保

・指導主事（外国語）による全ての県立高校の学校訪問
・目指す英語授業の共有と県の英語教育リーダーの発掘